

インテグレートッド・アンプ

# N<sup>o</sup>5805

取扱説明書

mark  
levinson<sup>®</sup>  
by HARMAN

# 目次

<b>はじめに</b> .....	<b>3</b>	<b>サラウンドサウンド・プロセッサ(SSP)を含むシステム</b> .....	<b>26</b>
本書の表記について .....	3	本機のSSPモード .....	26
梱包内容 .....	3	接続と操作 .....	26
保証について.....	3	<b>トラブルシューティング</b> .....	<b>28</b>
設置のしかた .....	4	<b>仕様</b> .....	<b>30</b>
電源について.....	4	アナログライン入出力部 .....	30
動作状態 .....	5	フォノ部 .....	30
リモコン電池について .....	5	MMカートリッジ .....	30
<b>各部の名称とはたらき</b> .....	<b>6</b>	MCカートリッジ .....	30
フロントパネル.....	6	DA変換部 .....	31
リアパネル .....	7	ヘッドホン出力.....	31
リモコン .....	10	アンプ部.....	31
<b>機器の接続</b> .....	<b>11</b>	一般.....	32
ソースコンポーネントとスピーカーの接続.....	11		
ターンテーブルの接続 .....	12		
USBメモリ/ USB HDDの接続.....	13		
<b>インテグレートッド・アンプの操作</b> .....	<b>14</b>		
クイックリスニング .....	14		
バランス調節のしかた .....	14		
入力ソースの選択.....	15		
コンピューターに保存された楽曲を再生する.....	15		
Bluetooth機器とペアリングする.....	16		
<b>設定メニュー</b> .....	<b>17</b>		
設定メニューの操作.....	17		
<SETUP:Input>(入力設定).....	18		
<SETUP:Volume>(音量調整).....	21		
<SETUP:Power>(電源管理) .....	22		
<SETUP:Display>(ディスプレイ) .....	22		
<SETUP:Advanced>(詳細設定) .....	23		

# はじめに

この度は、マークレビンソン インテグレートッド・アンプ N°5805 をご購入いただき、誠にありがとうございます。

## 本書の表記について

本書では、説明を読みやすくするために、以下の表記方法を採用しています。

表記	説明
[standby] (スタンバイ) ボタンなど	本機およびリモコンのボタンや端子の名称は [ ] で囲んで示します。必要に応じて、その日本語訳を ( ) 内に示します。
<XLR> <Phono> など	本機またはリモコン操作で選んだソースの、ディスプレイに表示される名称を < > で囲んで示します。
<Input Setup> (入力設定) メニューなど	メニューの項目を < > で囲んで示します。必要に応じて、その日本語訳を ( ) 内に示します。
<Volume> (音量) → <Max Vol> (最大音量) など	メニューの項目を、記載された順番にたどることを示します。

## 梱包内容

インテグレートッド・アンプ N°5805 には下記の品目が同梱されています。

品目	数量
N°5805 本体	1
N°5805 リモコン (単 4 アルカリ電池 2 個付属)	1
N°5805 取扱説明書 (英語)	1
N°5805 取扱説明書 (本書)	1
N°5805 安全情報シート	1
N°5805 品質保証書	1
IEC 電源コード (3P-2P 変換アダプター付き)	1
六角レンチ (リモコンの電池交換用)	1

## 保証について

本製品の保証は、添付されている品質保証書の規定に基づいて行われます。保証書の内容をご確認の上、大切に保管してください。

## 設置のしかた

本機の性能を最大限に引き出すための注意事項を示します。

### 開梱

後日、輸送する場合に備えて、梱包材はすべて保管してください。

開梱時に本機が損傷していないかご確認ください。損傷が見つかった場合は、賠償請求について正規のマークレビンソン販売店、またはハーマンインターナショナル株式会社にお問い合わせください。

付属品を取り出し、3ページの「梱包内容」に記載の品目がすべてそろっていることを確認してください。

不足品がある場合は、正規のマークレビンソン販売店、またはハーマンインターナショナル株式会社にお問い合わせください。

### 設置と換気

適切な換気を保つために、本機を他の機器と重ねず、単体でラックに設置してください。このとき、頑丈で水平な場所に設置してください。また、扉付きのラックやキャビネットなどには設置しないでください。

接続するオーディオコンポーネントの近くに設置し、接続ケーブルができるだけ短くなることをおすすめ致します。

直射日光が当たらない、湿気の少ない風通しの良い場所に設置してください。

本機を高温、高湿度、蒸気、煙や大量のほこりにさらさないでください。

## 電源について

本機は出荷時に 50/60Hz AC100V 用に設定されています。動作前に、リアパネルの [～ ac mains] 端子近くにある電源レベルがお住いの地域の動作電圧を示していることを確認してください。本機には、販売地域で使用するための着脱式 IEC 電源ケーブルが付属しています。

### ご注意

本機の動作電圧を調整しないでください。動作電圧が適正でない場合や、転居などにより動作電圧を変更する必要がある場合は、正規のマークレビンソン販売店、またはハーマンインターナショナル株式会社にお問い合わせください。

動作電圧を変更した場合、別の電源や差し込みプラグが必要になることがあります。

本機を所定外の AC 電圧に接続すると、人体への危険や火災発生の危険、および本機の故障につながる場合があります。

本機の動作電圧または本機をお使いになる地域の電源電圧について疑問がある場合は、本機を AC コンセントに接続する前に正規のマークレビンソン販売店、またはハーマンインターナショナル株式会社にお問い合わせください。

### 警告！

オーディオシステムのすべてのコンポーネントが適切に接地されていることを必ず確認してください。

コンポーネント間に危険なレベルの電圧が形成され、けがや製品破損につながるおそれがあります。

雷雨時や本機を長時間使用しないときは、電源プラグを AC コンセントから抜いてください。

### ご注意

本機を移動するときは、電源コードを AC コンセントからも本機のリアパネルからも抜いてください。

## 動作状態

本機の動作状態には、下記の3種類があります。

- ・ **オフ**：リアパネルから電源コードが外され、AC電源が切断されている状態です。
- ・ **スタンバイ**：スタンバイ状態にはグリーン、パワーセーブ、ノーマルという3種類のモードがあり、設定メニューで選択できます。(スタンバイモードの変更については、「設定メニュー」の18ページを参照してください。)

モード	説明
グリーンモード	ほぼすべての回路への電源供給が遮断されます。 [standby] ボタンを押したとき、またはIRコントロール信号や5V～12Vのトリガー信号を入力したときのみ、オン状態に切り替わります。 スタンバイモードの中で、最大の節電が可能になります。
パワーセーブモード	オーディオ回路への電源供給が遮断されますが、コントロール回路には通電して、フロントパネル、リモコン、またはウェブブラウザからのコマンドを受け取れるようにします。 このモードのとき、節電効果は中程度です。
ノーマルモード	ディスプレイをオフにし、オーディオ出力をミュートしますが、コントロール回路およびオーディオ回路は通電状態になります。 節電効果はスタンバイモードの中で最小ですが、オーディオ回路はいつでも最適動作ができる状態に維持されます。出荷時にはこのノーマルモードに設定されています。

- ・ **オン**：本機全体に電源が入り、設定した出力がすべて有効になります。

本機にはオートオフ機能が搭載されており、コントロール入力がない状態、またはオーディオ信号が本機を通過しない状態が20分継続すると、本機は自動的にスタンバイ状態になります。

出荷時の設定では、オートオフ機能はオフ（無効）です。

オートオフ機能はメニューで有効にできます（「設定メニュー」の22ページ参照）。

## リモコン電池について

本機のリモコンには単4アルカリ乾電池2個が付属しています。

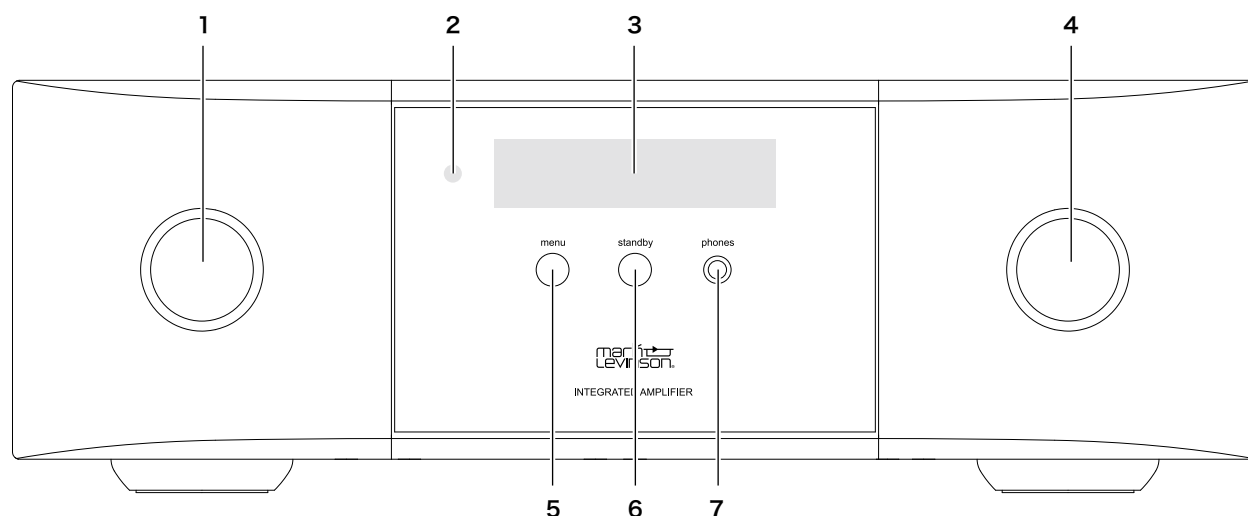
### 電池を交換するには

電池をセットするには、次のようにします。

1. 付属の六角レンチで電池収納部のカバーを外します。
2. 電池2個を収納部に入れます。このとき、極性（+/-）を間違えないように注意してください。
3. 収納部カバーを元どおりに取り付けます。

# 各部の名称とはたらき

## フロントパネル



### 1 入力 / 選択ノブ

通常動作時は、このノブを回して希望の入力ソースを選択します。

ディスプレイに、選択した入力ソースの名前と音量レベルが表示されます。

ディスプレイに設定メニューを表示しているときにこのノブを回すと、メニューの設定項目を切り替えることができます。

※ 設定メニューで <Input Name> (入力名) を <Disabled> (無効) に設定している入力信号は、このノブで選択できません。

### 2 IR (赤外線) 受信部

リモコンからのコントロール信号を受信します。

※ リモコンと IR 受信部の間に遮蔽物を置かないでください。

※ リアパネルの [IR Input] (IR 入力) 端子を使って本機をコントロールしているときは無効になります。

### 3 ディスプレイ

最大 32 文字の英数字で本機の動作 / 設定状態を表示します。

通常動作時は、現在選択している入力の名前と音量レベルを表示します。

### 4 ボリューム / 決定ノブ

このノブは、ノブとして回すことも、スイッチとして押すこともできます。

通常動作時にこのノブを回すと、音量を調節できます。

通常動作時にこのノブを押すと、デジタル入力のサンプリングレートが表示されます。サンプリングレートとともに <MQA> または <MQA.> が表示された場合は、MQA ストリームまたはファイルのエンコードと再生が行われていることを示します。

ディスプレイにメニューの設定項目を表示しているときにこのノブを回すと、設定値を切り替えることができます。表示された設定項目 / 設定値を選択または選択解除するときは、ノブを押します。

### 5 [menu] (メニュー) ボタン

押すと、設定メニューが表示されます。設定メニューにより、本機の設定を他のシステムコンポーネントやお客さまの好みに合わせるすることができます。

レベル 2 のメニュー階層よりも下の階層を表示しているときにこのボタンを押すと、1 つ上の階層に戻ることができます。

## 6 [standby] (スタンバイ) ボタンとインジケータ

ボタンを押すたびに、電源のオン、オフが切り替わります。

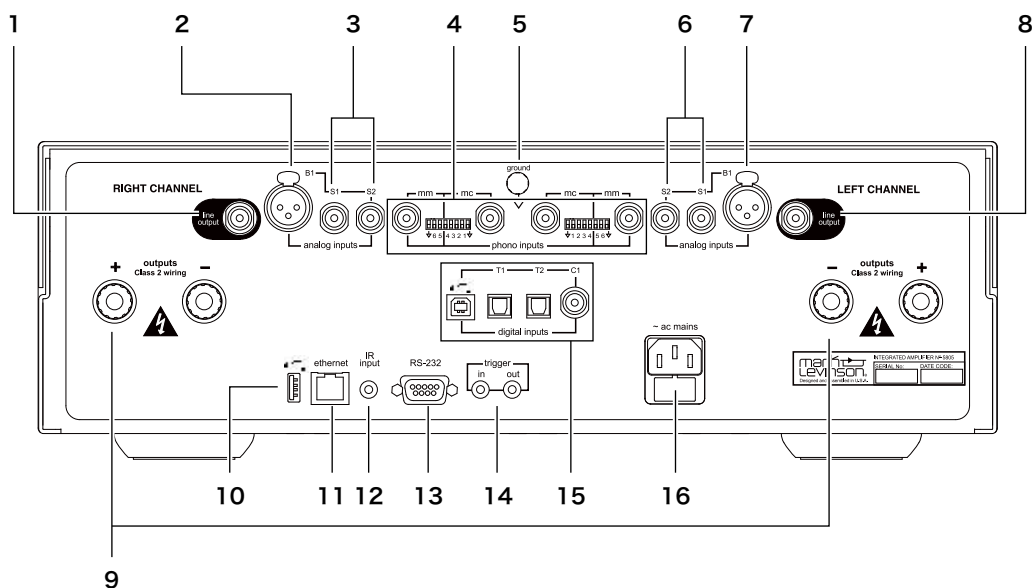
本機がオン状態のときは、インジケータは赤色で点灯します。本機がスタンバイ状態になると、インジケータはゆっくり点滅します。

## 7 [phones] (ヘッドホン) ジャック

φ 6.35mm の TRS (チップ / リング / スリーブ) フォーンプラグまたはアダプター付きのヘッドホンを接続します。

ヘッドホンがスピーカーに接続されているとき、スピーカー出力とライン出力はミュートされます。

## リアパネル



### 1 [line output] (ライン出力) 端子 (RCA、右)

右チャンネルのラインレベル信号を出力します。

この端子を使用して、選択した入力ソースを別の場所にあるスピーカーと接続したアンプや録音機器に出力できます。

#### 注記

ライン出力の出力レベルは、ボリューム、バランス、ミュートの設定に依存します。

### 2 [analog inputs B1] (アナログ・バランス入力) 端子 (XLR、右)

ソース機器のバランス出力端子 (XLR) から出力される右チャンネル信号を入力します。

### 3 [analog inputs S1/S2] (アナログ・アンバランス入力) 端子 (RCA、右)

ソース機器のアンバランス出力端子 (RCA) から出力される右チャンネル信号を入力します。

#### 4 [phono inputs mm/mc] (フォノ入力) 端子と DIP スイッチ (左、右)

左右チャンネルのムービングマグネット (MM) およびムービングコイル (MC) フォノカートリッジ信号を入力できます。  
[MM] 端子には、ムービングマグネットカートリッジを持つターンテーブルを接続します。[MC] 端子には、ムービングコイルカートリッジを持つターンテーブルを接続します。ターンテーブルは 1 台のみ接続できます。

##### ご注意

フォノ入力端子には、ターンテーブル以外のソース機器を接続しないでください。  
DIP スイッチの設定操作中は、電源をオフにしてください。(12 ページ参照)

#### 5 [ground] (接地) 端子と GND スイッチ

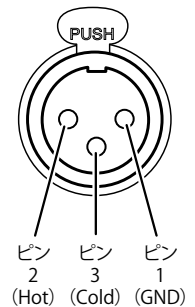
[phono inputs mm/mc] 端子にアース線付きのターンテーブルを接続するときは、アース線をアースねじに接続します。ノイズやハムが大きいときは、GND スイッチを上位の位置に設定してください。

#### 6 [analog inputs S1/S2] (アナログ・アンバランス入力) 端子 (RCA、左)

ソース機器のアンバランス出力端子 (RCA) から出力される左チャンネル信号を入力します。

#### 7 [analog inputs B1] (アナログ・バランス入力) 端子 (XLR、左)

ソース機器のバランス出力端子 (XLR) から出力される左チャンネル信号を入力します。  
本機のアナログ・バランス入力端子のピン配列は右のとおりです。



#### 8 [line output] (ライン出力) 端子 (RCA、左)

左チャンネルのラインレベル信号を出力します。

この端子を使用して、選択した入力ソースを別の場所にあるスピーカーと接続したアンプや録音機器に出力できます。

##### 注記

ライン出力の出力レベルは、ボリューム、バランス、ミュートの設定に依存します。

#### 9 [outputs class 2 wiring +/-] (スピーカー出力) 端子 (左、右)

スピーカー端子で、正 (+) 極のバイディングポストは赤色、負 (-) 極のバイディングポストは黒色です。被覆を剥いた裸線、スペードラグ、バナナプラグなどで端末処理されたスピーカーケーブルを接続できます。

極性 (+ / -) を間違えたり、位相の違いがあると、低域レスポンスやステレオイメージが貧弱になります。

##### ご注意

- ・ スピーカーシステムを接続するときは、必ず本機の電源をオフにしてください。
- ・ バイディングポストをきつく締めすぎないでください。バイディングポストのナットを、曲がった端子や大きすぎる端子にむりに嵌めないでください。むりに嵌めようとすると、バイディングポストが破損することがあります。
- ・ 正負の出力をショートさせないように注意してください。正出力または負出力を筐体や安全アースとショートさせないでください。

#### 10 USB 端子

USB type A 端子です。標準的な USB HDD や USB メモリー (FAT32 フォーマット) を接続して、ファームウェアの更新や設定状態のエクスポートおよびインポートを行うことができます。(ファームウェアの更新については、「設定メニュー」の 24 ページを参照してください。)

##### 注記

USB A 端子は音楽ファイルの再生には使用できません。



## 11 [ethernet] (LAN) 端子 (RJ45)

Cat5e/CAT6 イーサネットケーブルを接続して、本機をホームネットワークに接続できます。本機をホームネットワークに接続すると、インターネットブラウザから、本機をセットアップしたり、操作することができます。

## 12 [IR input] (赤外線入力) 端子 (φ 3.5mm)

IR リピーターなどの赤外線受光器を接続できます。

## 13 [RS-232] 端子 (DB9F)

標準の RS-232 接続によるシリアル制御が行えます。

## 14 [trigger in/out] (トリガー入 / 出力) 端子

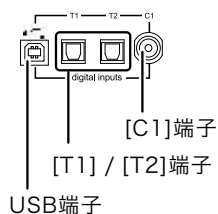
3.5mm チップ / スリーブ端子で、[in] 端子には、他のシステムコンポーネントまたは制御システムからのトリガー出力を接続します。[out] 端子は、オーディオシステムや他のコンポーネント（アンプ、ライト、ウィンドウシェードなど）を起動するのに使用します。

[in] 端子に DC 5V ~ 12V の電圧を検出すると、本機の電源がオンになります。トリガー入力がなくなると、本機はスタンバイ状態になります（下図参照）。本機の電源がオンになっているとき、常時 12V 100mA DC 信号が [out] 端子から出力されます（下図参照）。



## 15 [digital inputs] (デジタル入力) 端子

本機には、以下の 4 つのデジタルオーディオ入力端子があります。



**USB 端子 (非同期、type B) :** 音楽ソフトを保存したコンピューターを USB ケーブルで接続します。

**[T1] / [T2] (S/PDIF オプティカル) 端子 (TOSLINK) :** オーディオコンポーネントの S/PDIF TOSLINK デジタル出力端子とオプティカルケーブルで接続します。オーディオコンポーネントを 2 台まで接続できます。

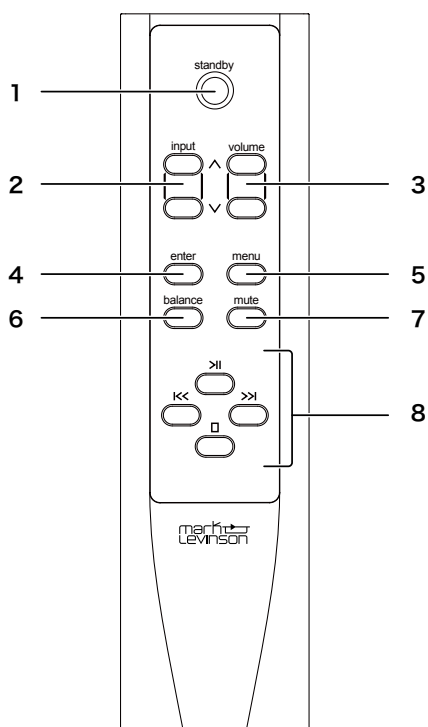
**[C1] (S/PDIF 同軸) 端子 (RCA) :** オーディオコンポーネントの同軸デジタル出力端子と RCA ケーブルで接続します。

## 16 [~ ac mains] (AC 電源端子)

付属の電源コードで AC コンセントと接続すると、この端子を介して本機に AC 電力が供給されます。

雷雨時や本機を長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いておくことをおすすめします。

## リモコン



### 1 [standby] (スタンバイ) ボタン

ボタンを押すたびに、電源のオン、スタンバイが切り替わります。

### 2 [input ^/∨] (入力) ボタン

いずれかのボタンを押して、入力ソースを選択します。  
ディスプレイに、選択した入力ソースの名前と音量レベルが表示されます。

設定メニューを表示しているときは、これらのボタンを項目選択に使用します (17 ページ参照)。

- ※ 入力ソースが切り替わるまで少し時間がかかります。
- ※ 設定メニューで <Disabled> (無効) に設定されているソースは選択できません。

### 3 [volume ^/∨] (音量) ボタン

いずれかのボタンを押して、スピーカー / ライン / ヘッドホン出力の音量レベルを調節します。

最小音量レベルは 0 です。工場出荷時の最大音量レベルは 80 ですが、設定メニューの <Max Vol> (21 ページ参照) で変更できます。

### 4 [enter] (決定) ボタン

ディスプレイに設定メニューを表示しているときは、このボタンを押して、表示された設定項目 / 設定値を選択したり、選択を解除したりします。

### 5 [menu] (メニュー) ボタン

このボタンを押すと、ディスプレイに設定メニューが表示されます。(ディスプレイに <Setup> と表示されます。) 設定メニューでは、お使いのシステムやお客さまの好みに合わせて本機をカスタマイズすることができます。

レベル 2 のメニュー階層よりも下の階層を表示しているときにこのボタンを押すと、1 つ上の階層に戻ることができます。

### 6 [balance] (バランス) ボタン

左右チャンネルのバランスを調整するとき、このボタンを押します。(ディスプレイに < - - L/R - - > が表示されます。)

[volume ∨] ボタンを押すたびに、左チャンネルの音量レベルが 1dB ずつ上がります。

[volume ^] ボタンを押すたびに、右チャンネルの音量レベルが 1dB ずつ上がります。

最大シフトは - 20dB で、その後は逆チャンネルの信号がオフになります。

バランス調整中は、他のコントロールは無効になります。バランス調整を終了するには、もう一度 [balance] ボタンを押します。

### 7 [mute] (ミュート) ボタン

このボタンを押すと、スピーカー / ライン / ヘッドホン出力をミュートすることができます。(ディスプレイに <Mute> が表示されます。)

ミュート時の出力レベルは設定メニューで設定します (工場出荷時は 40dB)。

ミュートを解除するときは、もう一度このボタンを押します。

### 8 Bluetooth ナビゲーションボタン

Bluetooth 接続した機器のソースを使用するときは、これらのボタンを押して、楽曲の再生をコントロールします。

◀◀: 再生中のトラックの先頭に戻すときに押します。トラックの先頭で押すと、前のトラックに戻ります。

◻: 再生を停止するときに押します。

▶▶: 再生を開始したり、再生中のソースを一時停止状態にしたりするときに押します。

▶▶: 再生中のソースを次のトラックに進めるときに押します。

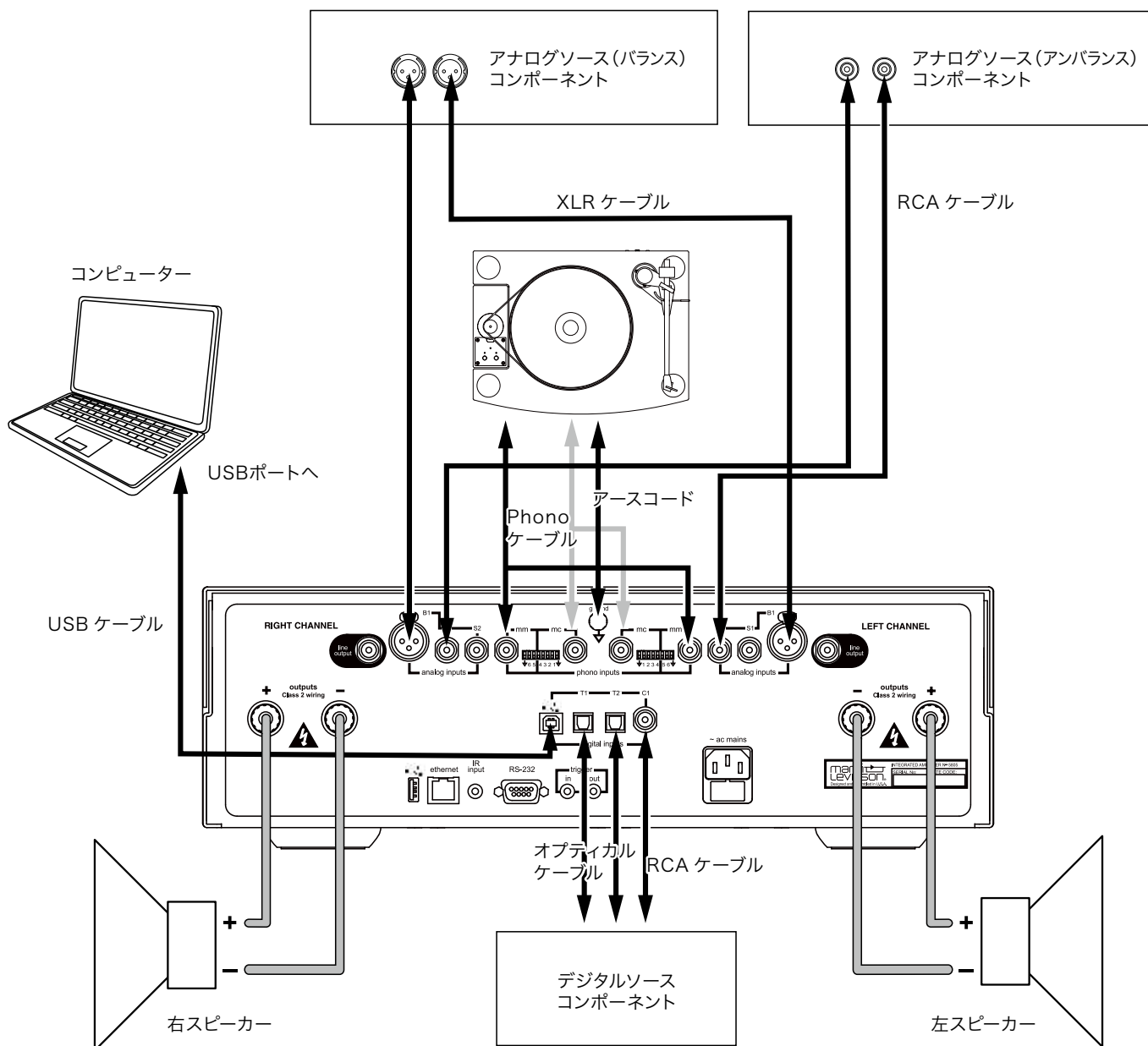
# 機器の接続

本機と他のコンポーネントなどとの接続のしかたを図示します。図を参照して、ご使用になる機器を接続してください。

## ご注意

接続の前に、すべての機器の電源をオフにし、電源コードを AC コンセントから抜いてください。

## ソースコンポーネントとスピーカーの接続



## 注記

本機にすべてのソースコンポーネントを接続したら、設定メニューで、使用していないすべての入力の名前を <Disabled> (無効) に設定することをおすすめします。

利用可能な入力のリストから未使用の入力が削除され、入力のリストをスクロールするときにスキップされます。

## ターンテーブルの接続

ターンテーブルを接続するときは、[MM] 端子と [MC] 端子の間にある DIP スイッチで、[MM] 端子の入力抵抗または [MC] 端子の入力容量を設定します。これらを正しく設定しないと、ターンテーブルの最適なパフォーマンスを引き出せません。下表に従って正しく設定してください。工場出荷時は全スイッチが下側の位置に設定されています。推奨負荷設定については、カートリッジのマニュアルを参照してください。カートリッジのマニュアルで指定されている設定に最も近い設定を選択します。たとえば、指定されている MC 負荷が 100 Ω であれば、110 Ω の設定にします。

負荷スイッチ						負荷値
ムービングコイル (MC)				ムービングマグネット (MM)		
1	2	3	4	5	6	
↓	↓	↓	↓	x	x	1000 Ω
↓	↓	↓	↑	x	x	500 Ω
↓	↓	↑	↓	x	x	250 Ω
↓	↓	↑	↑	x	x	200 Ω
↓	↑	↓	↓	x	x	125 Ω
↓	↑	↓	↑	x	x	110 Ω
↓	↑	↑	↓	x	x	90 Ω
↓	↑	↑	↑	x	x	82 Ω
↑	↓	↓	↓	x	x	62 Ω
↑	↓	↑	↓	x	x	52 Ω
↑	↑	↓	↓	x	x	43 Ω
↑	↑	↑	↑	x	x	37 Ω
x	x	x	x	↓	↓	20pF
x	x	x	x	↓	↑	70pF
x	x	x	x	↑	↓	120pF
x	x	x	x	↑	↑	170pF

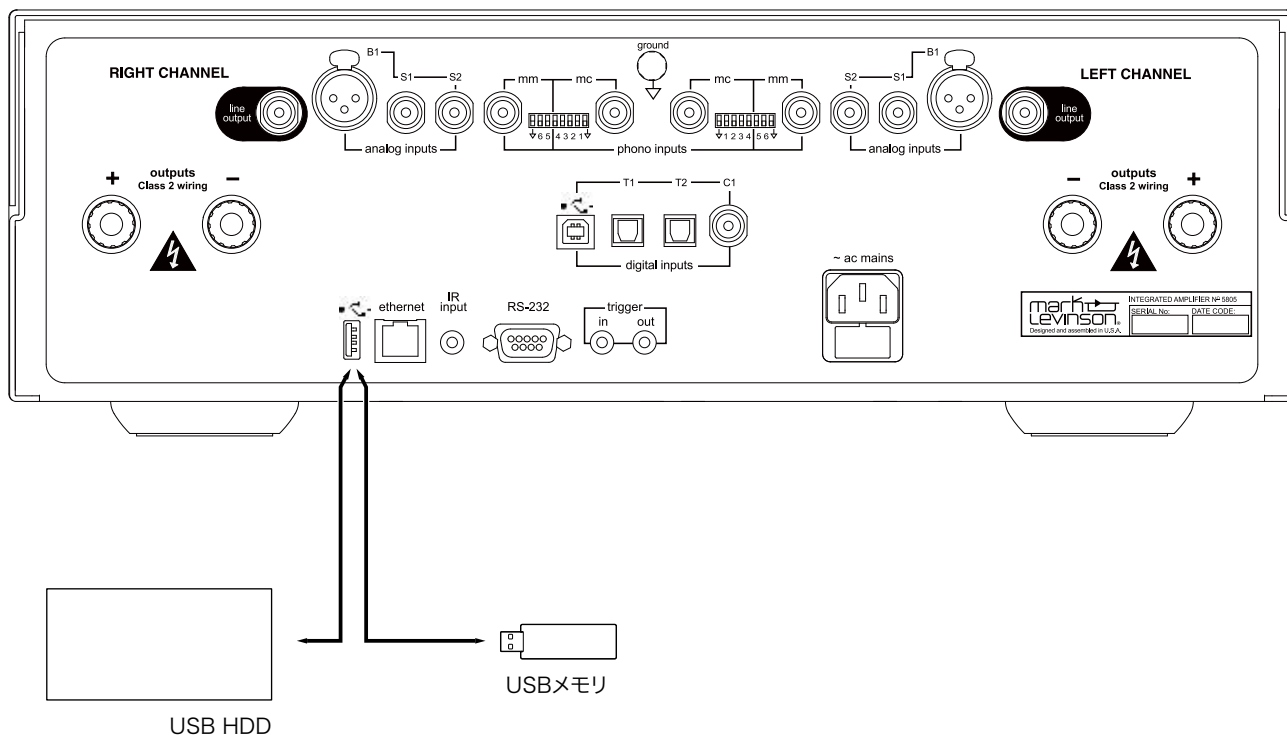
スイッチを設定するときは、精密ドライバーなどの小さな工具を使用してください。

## USB メモリ / USB HDD の接続

本機のファームウェアの更新を行うとき、および本機の設定状態のエクスポート / インポートを行うときに、媒体として USB メモリまたは USB HDD を使用します。

本機は、USB メモリ / USB HDD の接続用として、USB 端子 (type A) を備えています。

本機



### 注記

USB A 端子は音楽ファイルの再生には使用できません。

# インテグレートッド・アンプの操作

## クイックリスニング

接続完了後すぐに音を聴きたいときは、次の手順を行います。

1. 付属の電源ケーブルを、本機の [~ ac mains] 端子と AC コンセントに接続します。
2. 本機とすべてのソース機器の電源を入れます。
3. 本機のフロントパネルまたはリモコンの [standby] ボタンを押して点灯させます。
4. 本機の入力 / 選択ノブを回すか、リモコンの [input  $\wedge$  /  $\vee$ ] ボタンを押して、音を聴きたいソース機器を選択します。
5. 本機の音量を適度なレベルに設定します。
6. 選択したソース機器で再生を開始します。

本機の設定およびコントロールは、フロントパネル上の操作部でもリモコンでも行えます。また、サードパーティ製コントロールシステムと統合して、本機を操作することもできます。

さらに、ウェブページにアクセスすると、設定内容をインポート / エクスポートしたり、コンピューターまたはタブレットと標準的なウェブブラウザを使ってファームウェアをアップデートすることができます。

## バランス調節のしかた

左右のバランスを調節するには、以下のように操作します。

1. リモコンの [balance] (バランス) ボタンを押します。  
音量レベルが左右のいずれにもオフセットされていないときは、ディスプレイに <-- L/R --> が表示されます。
2. フロントパネルの音量 / 選択ノブを回すかリモコンの [volume  $\wedge$  /  $\vee$ ] ボタンを押してバランスを調節します。  
音像を左に移動するには音量 / 選択ノブを左に回すか [volume  $\vee$ ] ボタンを押します。ボタンを押すたびに、左チャンネルの音量レベルが 1dB ずつ上がります。  
右チャンネルがミュート状態になると <R CH OFF> と表示されます。  
音像を右に移動するには音量 / 選択ノブを右に回すか [volume  $\wedge$ ] ボタンを押します。ボタンを押すたびに、右チャンネルの音量レベルが 1 dB ずつ上がります。  
左チャンネルがミュート状態になると <L CH OFF> と表示されます。
3. リモコンの [balance] ボタンを押してバランス調節を終了します。

## 入力ソースの選択

### ご注意

再生するソースを切り替える前に、本機の音量を 0（最小）にしてください。  
切り替えたソースが思わぬ大音量になる場合があります。

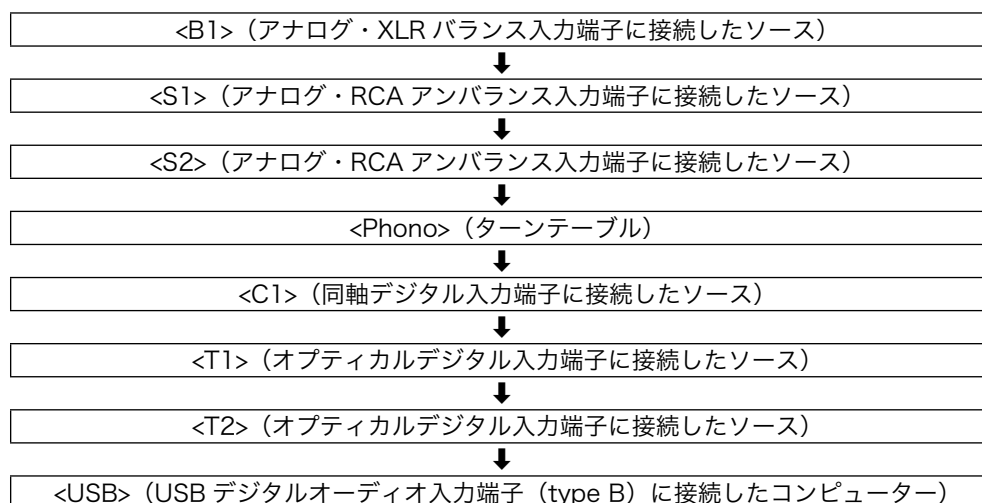
本機に接続されているオーディオソースから希望のソースを選んで再生するには、フロントパネルの入力 / 選択ノブまたはリモコンの [input  $\wedge$  /  $\vee$ ]（入力）ボタンを使います。

ノブを回すかボタンを押すたびに、以下の順で本機から出力されるオーディオソースが切り替わります。

希望のソースに切り替えたら、選んだオーディオソースで再生を開始してください。

### 注記：

ディスプレイに表示されるソースの名称は設定メニューで変更することができます。  
また、設定メニューで名称を <Disabled>（無効）に設定したソースは選択できません。



## コンピューターに保存された楽曲を再生する

再生したい楽曲が保存されているコンピューターを、本機リアパネルの USB デジタルオーディオ入力端子（type B）に USB ケーブルを使って接続します。

### ドライバーをインストールする

コンピューターに USB ドライバーをインストールする必要があります。

下記のサイトにアクセスし、お使いのコンピューターに適合したドライバーをダウンロードし、インストールしてください。

[http://marklev.harman-japan.co.jp/info/no5805\\_info.php](http://marklev.harman-japan.co.jp/info/no5805_info.php)

### コンピューターを選択する

フロントパネルの入力 / 選択ノブまたはリモコンの [input  $\wedge$  /  $\vee$ ]（入力）ボタンで <USB> を選択します。

### 再生を開始する

入力ソースとしてコンピューターを選択したら、コンピューター側で希望の楽曲の再生を開始します。

## Bluetooth 機器とペアリングする

本機とソースコンポーネントを Bluetooth 接続して楽曲を聴くときは、本機と Bluetooth 機器をペアリングします。

1. フロントパネルまたはリモコンの [menu] (メニュー) ボタンを押します。  
〈SETUP:Input〉が表示され、メニュー操作状態になります。
2. メニューを〈BT〉 (Bluetooth) → 〈BT Pairing〉 (Bluetooth ペアリング) の順に選択します。
3. フロントパネルの音量 / 選択ノブまたはリモコンの [volume ▲/▼] ボタンを押します。  
本機がペアリングを開始します。
4. Bluetooth 機器でペアリング手順を開始すると、「ML580X ○○○○」と、本機および Bluetooth 機器に固有の 4 桁の ID で構成される名前が、Bluetooth 機器上に表示されます。
5. Bluetooth 機器で表示された名前を選択します。

ペアリングを解除するときは、〈BT Pairing〉を〈Forget〉 (解除) に設定します。



# 設定メニュー

設定メニューを使用して本機をカスタマイズし、性能、省電力効果、および使いやすさを高めるように設定できます。

## 設定メニューの操作

設定メニューは、下表に示すフロントパネル上の操作部またはリモコンから操作します。

ボタンなど		はたらき
フロントパネル	リモコン	
[menu] ボタン	[menu] ボタン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 押すとメニュー操作モードになり、レベル 1 の最初の項目 &lt;Input Setup&gt; が表示されます。</li> <li>・ 押すと前のレベルに戻ります。何回か押すとメニューを終了します。</li> </ul>
入力 / 選択ノブ	[input ^ / v] ボタン	ノブを回すかリモコンのボタンを押して現在のレベルで設定する項目を選びます。
音量 / 設定ノブ	[enter] ボタン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次のレベルがある場合は、ノブを押すかリモコンのボタンを押すことで次のレベルに進みます。</li> <li>・ 次のレベルがない場合は、ノブを押すかリモコンのボタンを押すことで変更された設定が記憶、実行されます。</li> </ul>
	[volume ^ / v] ボタン	ノブを回すかボタンを押して、設定値を変更します。

設定値を変更する状態では、ディスプレイの表示の「=」が点滅します。

「=」の左側に設定する項目、右側に設定値が表示されます。

例：<Standby = Green>

<Standby> (スタンバイモード) を <Green>、<Power save>、<Normal> のいずれかに設定することができます。

### 設定メニューの 5 つのメニュー

設定メニューには、以下の 5 つのメニューがあります。

メニュー	主なはたらき
SETUP:Input (入力設定)	入力ソースの表示名の変更や、入力信号に対する処理のしかたの設定をします。
SETUP:Volume (音量調整)	本機が出力する音量レベルについて設定します。
SETUP:Power (電源管理)	スタンバイモードやオートパワーオフに関する設定をします。
SETUP:Display (ディスプレイ)	ディスプレイの輝度などについての設定をします。
SETUP:Advanced (詳細設定)	本機のファームウェアの更新や設定状態のエクスポート、インポートと初期設定へのリセット、トリガー信号の設定や IR 信号の受信のしかたの設定などを行います。

## メニュー操作例

ここでは、メニューを操作してスタンバイモードを <Normal>（ノーマル）に設定する手順を示します。  
現在、<Green>（グリーン）に設定されているものとします。

1. フロントパネルまたはリモコンの [menu]（メニュー）ボタンを押します。  
<SETUP:Input> が表示され、メニュー操作状態になります。
2. フロントパネルの入力 / 選択ノブまたはリモコンの [input ^ / v] ボタンで <SETUP:Power>（電源管理）を選びます。
3. フロントパネルの音量 / 設定ノブまたはリモコンの [enter] ボタンを押します。レベル 2 に進みます。
4. [Standby](スタンバイ設定) を選び [enter] ボタンを押します。  
<Standby = Green>（スタンバイモード=グリーン）が表示されます。
5. フロントパネルの音量 / 設定ノブまたはリモコンの [enter] ボタンを押します。  
<Standby = Green> の <=> が点滅し、設定の変更が可能な状態になります。
6. フロントパネルの音量 / 設定ノブを回すかリモコンの [volume ^ / v] ボタンを押して <Standby = Normal> に切り替えます。
7. 音量 / 設定ノブまたは [enter] ボタンを押して決定した後、フロントパネルまたはリモコンの [menu] ボタンを繰り返し押ししてメニュー操作を終了します。

以降、各メニューの構造と設定内容を示します。

## <SETUP:Input>（入力設定）

レベル 1	レベル 2	レベル 3（レベル 2 の各項目に共通）	設定値（下線は初期値）	設定可能な入力	
SETUP:Input	-	Set Input XX (XX= レベル 2 で選択した入力)	-	-	
	B1	Name	-	すべての入力	
	S1	Offset	-12.0dB ~ <u>0.0dB</u> ~ +12.0dB (0.5dB 単位)		
	S2	SSP	On/ <u>Off</u>		アナログ入力
	Phono		Ph Balance	+/-3dB	フォノ入力
			Infra Filt	On/Off	
			Phono Type	MM/MC	
	C1	PCM Filter	-	デジタル/Bluetooth 入力	
	T1	PLL Lock	<u>Normal</u> /Wide		
	T2	Upsample	On/Off		
	USB	DSD Filter	-	USB 入力	
	BT		BT Name	-	Bluetooth 入力
			BT Pairing	-	

## 各項目の設定

### Name (名称)

フロントパネルの入力 / 選択ノブまたはリモコンの [input  $\wedge$  /  $\vee$ ] ボタンで選んだ入力ソースの名称（ディスプレイに表示される名称）を選択します。

### 例：レベル 2 で B1 を選択した場合

初期設定は <B1> です。これを、以下のいずれかに変更できます。

<Disabled> <Custom>\*<sup>1</sup>

および <LIST> 内の設定として <CD> <SACD> <DVD> <Blu-Ray> <DAC> <EQ> <Input 1> <Analog1>

\*1：ユーザーが任意に付ける名称

アナログ・バランス入力端子に CD プレーヤーを接続しているときに <CD> に設定すれば、入力ソースの選択がより容易になります。

この入力ソースを無効にするには、<Disabled>（無効）を選択します。  
入力が無効になっていないときは、<Disabled=Off> が表示されます。

任意の名称に変更するには、フロントパネルの入力 / 選択ノブと音量 / 設定ノブ または リモコンの [enter] ボタンと [input  $\wedge$  /  $\vee$ ] および [volume  $\wedge$  /  $\vee$ ] ボタンを使用して、以下のように操作します。

1. 入力 / 選択ノブを回すか [input  $\wedge$  /  $\vee$ ] ボタンを押して <Custom> を選択します。  
現在の設定 (<Name=Input B1> など) が表示され、名称の先頭に文字と <\_> が交互に表示されます。
2. 音量 / 設定ノブまたは [volume  $\wedge$  /  $\vee$ ] ボタンで <\_> を希望の文字に切り替えます。英（大文字 / 小文字）数字、各種記号の中から選択できます。
3. 音量 / 設定ノブまたは [enter] ボタンを押します。ひとつ右の文字に進み、<\_> と交互に表示されます。
4. 音量 / 設定ノブまたは [volume  $\wedge$  /  $\vee$ ] ボタンで <\_> を希望の文字に切り替え、音量 / 設定ノブまたは [enter] ボタンを押します。
5. 手順 4、5 を繰り返して、希望の名称に変更します。  
これ以上文字を選択しない場合は、音量 / 設定ノブまたは [enter] ボタンだけを押し、右に進み、9 文字分の設定を行います。  
新しい名称が保存されます。
6. フロントパネルまたはリモコンの [menu] ボタンを繰り返し押し、メニュー操作を終了します。

### Offset (オフセット)

レベル 2 で選択した入力ソースのオーディオ出力レベルが他の入力ソースと比べて高い、あるいは低い場合に、<Offset> を調節して他の入力ソースと同じにすることができます。

– 12.0dB ~ + 12.0dB の範囲で、0.5dB 単位で調節できます。

### SSP

本機をサラウンドサウンド・プロセッサに接続するときに <SSP> を <On> に設定します。

レベル 2 でアナログ入力を選んだときのみ設定可能です。

SSP 設定について詳しくは「サラウンドサウンド・プロセッサを含むシステム」(26 ページ) を参照してください。

レベル 2 でデジタル入力を選んだときは設定できません。

### Ph Balance (フォノ入力バランス)

ターンテーブルの左右チャンネル間のわずかなアンバランスを補正します。

<-3.0> (3.0dB 左寄り) から <+3.0> (3.0dB 右寄り) の範囲で、0.5dB 単位で調節できます。

レベル 2 でフォノ入力を選んだときのみ設定できます。

### Infra Filt (インフラソニックフィルター)

可聴帯域以下のノイズを低減するインフラソニック (ランブル) フィルターを有効にするとき <On> に設定します。  
レベル 2 でフォノ入力を選んだときのみ設定できます。

### Phono Type (フォノタイプ)

接続するターンテーブルのカートリッジが MC (ムービングコイル型) か MM (ムービングマグネット型) によって、<MC> または <MM> に設定します。

レベル 2 でフォノ入力を選んだときのみ設定できます。

### PCM Filter (PCM フィルター)

レベル 2 でデジタル入力を選んだときのみ設定できます。CD プレーヤーからのデジタル出力など、PCM デジタルコンテンツのフィルター特性を、以下のいずれかに設定します。実際に再生音を聴き比べながら、お好みに合わせて設定してください。

- ・ Apodiz Fast
- ・ Hybrid fast
- ・ Brickwall
- ・ Fast linear
- ・ Slow linear
- ・ Slow minimum
- ・ Fast minimum

「Fast」系フィルター： 高周波で急峻なロールオフを提供するため、不要な高周波の「エイリアス」信号を減衰させる効果があります。ただし、信号トランジェントに対してより多くのリングングを呈示します。

「Slow」系フィルター： トランジェントのリングングは少なくなります。不要な高周波信号を減衰させる好ましくない働きをします。

「Linear Phase」系フィルター： 対称的なプリリングングとポストリングングを示します。(トランジェント信号の前後でリングングします。)

「Minimum Phase」系フィルター： ポストリングングのみを呈示し、より自然に聞こえるように感じられる場合もありますが、通常は Linear Phase 系フィルターよりも長くリングングします。

「Hybrid」フィルター： 線形位相と最小位相の特性をブレンドして、プリリングングを減らしながら良好な高周波減衰を実現します。

「Apodizing」フィルター： 線形位相特性とプリリングングおよびポストリングングを低減する技術とを組み合わせています。

「Brick Wall」フィルター： 不要な高周波エイリアス信号を減衰させるために最適化されています。

### PLL Lock (PLL ロック)

レベル 2 でデジタル入力を選んだときのみ設定できます。

Normal： ほぼすべてのソースに適しています (工場出荷時の設定)。

Wide： ノイズや信号のドロップアウトが発生する場合 (ケーブルテレビのセットトップボックスのような高ジッターソースから発生する可能性が高い) に選択します。

### Upsample (アップサンプル)

レベル 2 でデジタル入力を選んだときのみ設定できます。

「アップサンプリング」は、デジタルオーディオ信号の実効サンプリングレートを上げる処理です。この項目をオンにすると、44.1、88.2、または 176.4kHz の信号が 352.8kHz にアップサンプリングされ、48、96、および 192kHz の信号が 384kHz にアップサンプリングされます。これらの低解像度の信号はそもそも秒ごとのサンプル数が少ないため、高解像度の信号なら存在したであろう追加のサンプルを完全に作り直すことが理論的に不可能です。しかし、本機の高度なアップサンプリングアルゴリズムは、これらの追加のデータポイントを近似することができ、ほとんどのプログラム素材で、主観的に顕著な改善を示しています。「オフ」を選択すると、元のサンプリングレートが維持されます。

PCM フィルターの選択と同様に、お好みに合わせて設定してください。

## DSD Filter (DSD フィルター)

レベル 2 で USB 入力を選んだときのみ設定できます。

DSD 高解像度デジタルコンテンツのローパスフィルター特性を設定できます。ロールオフ開始周波数を 47kHz、50kHz、60kHz、または 70kHz から選択できます。さまざまなロールオフ特性による可聴効果は微妙で、音楽コンテンツの種類やスピーカーおよびヘッドホンの高周波帯域幅に依存します。最適な DSD フィルター設定を見つけてください。

## BT Pairing (Bluetooth ペアリング)

<Enable> (有効) に設定し、音量 / 設定ノブまたは [enter] ボタンを押してペアリングを開始します。

Bluetooth 機器でペアリング手順を開始すると、「ML580X」と、本機および Bluetooth 機器に固有の 4 桁の ID で構成される名前が、Bluetooth 機器上に表示されます。表示された名前を選択してペアリングを完了します。

ペアリングを解除するときは <Forget> (解除) に設定します。

## BT Name (Bluetooth)

ペアリングスキャン中に Bluetooth 機器に表示される Bluetooth 名が表示されます。この名称は変更できません。

## <SETUP:Volume> (音量調整)

レベル 1	レベル 2	設定値 (下線は初期値)
SETUP:Volume	Max Vol	+40.0 ~ <u>+80.0</u>
	Mute	-10.0dB ~ <u>-40.0dB</u> ~ -80.0dB
	Turn On	10.0dB ~ <u>40.0dB</u> ~ 60.0/Last
	Taper	<u>Mode 1/Mode 2/Mode 3</u>

### 各項目の設定

#### Max Vol (最大音量)

フロントパネルの音量 / 設定ノブまたはリモコンの [volume ^ / v] ボタンで調整できる最大の音量レベルを設定します。スピーカー音が歪んで聞こえ始める音量よりやや下の音量に設定します。

40dB ~ 80dB の範囲で、0.5dB 単位で設定できます。

※小型スピーカーなどを使用し、許容入力小さい場合や、小さなお子様ボリュームに触れた際などに出力を制限できます。

#### Mute (ミュート)

リモコンの [mute] ボタンを押してスピーカー出力レベルとライン出力レベルの減衰量を設定します。

-10.0dB ~ -80.0dB の範囲で、0.5dB 単位で設定できます。

#### Turn On (起動時音量)

本機の電源をオンにしたときの音量レベルを設定します。

10dB ~ 60dB の範囲で、0.5dB 単位で設定できます。

<Last> に設定すると、最後に電源をオフにしたときの音量レベルが維持されます。

#### ご注意

前回電源を切ったときに音量レベルを高く設定していた場合、<Turn On> を <Last> に設定すると、起動時音量が予想外に大きくなる可能性があります。

## Taper (テーパー)

音量調節時、フロントパネルの音量 / 設定ノブの回し方と音量変化の関係を、以下の3つのモードのいずれかに設定します。

<Mode 1> (モード 1) : ノブを速く回すほど音量が速く変化します。ゆっくり回すと音量変化の速さも遅くなるので、音量を細かく正確に調整することができます。

<Mode 2> (モード 2) : ノブの回転の速さと音量変化の速さの関係はモード 1 と同じですが、音量変化の速さの程度がモード 1 に比べて荒くなります。

<Mode 3> (モード 3) : 音量を大きくするとき、小音量の範囲では音量が速く変化し、大音量になると音量がゆっくりと変化します。音量を小さくするとき、大音量の範囲では音量が速く変化し、小音量になると音量がゆっくりと変化します。それぞれ、希望する音量に近づくほど微調整が可能になります。

## <SETUP:Power> (電源管理)

レベル 1	レベル 2	設定値 (下線は初期値)
SETUP:Power	Standby	<u>Normal</u> /Green/PwrSave
	Auto Off	<u>Off</u> /On

### 各項目の設定

#### Standby (スタンバイ)

スタンバイ状態を <Normal> (ノーマルモード)、<Green> (グリーンモード)、<PwrSave> (パワーセーブモード) のいずれかに設定します。

各モードについては、「動作状態」(5 ページ) を参照してください。

#### Auto Off (オートオフ)

オートオフ機能を有効にするときに <On> に設定します。オートオフ機能を有効にすると、オーディオ信号およびコントロール信号の入力がない状態が 20 分続いたとき、本機は自動的にスタンバイ状態になります。

## <SETUP:Display> (ディスプレイ)

レベル 1	レベル 2	設定値 (下線は初期値)
SETUP:Display	Auto off	On/ <u>Off</u>
	Timer	<u>10s</u> /5s/3s

### 各項目の設定

#### Auto off (オートオフ)

Off に設定すると、本機が通常モードのときにディスプレイが常時点灯したままになります。On に設定すると、3、5 または 10 秒後にディスプレイがオフになります。

#### Timer (タイマー)

<Auto off> が <On> に設定されているとき、無操作状態が一定時間経過するとディスプレイは自動的にオフになります。

<10s> (10 秒)、<5s> (5 秒)、<3s> (3 秒) のいずれかに設定します。

## <SETUP:Advanced> (詳細設定)

レベル 1	レベル 2	レベル 3	設定値 (下線は初期値)	
SETUP:Advanced	Firmware	Version	-	
		Update	USB/ENET	
	Config	Export	-	
		Import	-	
		Lock	<u>Off</u> /On	
		Restore	-	
	Network	Name	-	
		DHCP	<u>On</u> /Renew/Off	
		IP Address	-	
		Subnet	-	
	Trigger			<u>Normal</u> /Pulsed
	Front IR			<u>On</u> /Off
	Amplifier Enable			<u>On</u> /Off

### 各項目の設定

#### Firmware (ファームウェア) – Version (バージョン)

フロントパネルの音量 / 設定ノブまたはリモコンの [enter] ボタンを押すと、現在のファームウェアのバージョン番号が表示されます。もう一度音量 / 設定ノブまたは [enter] ボタンを押すと、バージョンの日付が表示され、更新パッケージの各コンポーネントのバージョンが自動的にスクロールされて表示されます。(この項目は情報を知らせることを目的としています。設定や調整は行いません。)

ファームウェアが最新かどうかを確認するには、www.MarkLevinson.com の N05805 製品ページにアクセスして、Downloads タブを選択し、最新のファームウェア更新ファイルを探します。本機のファームウェアのバージョンより新しいバージョンのファームウェアがある場合は、<Update> で本機のファームウェアを更新します。本機のファームウェアのバージョンがウェブサイトに表示されているバージョンと同じ場合は、操作は不要です。

## Firmware (ファームウェア) – Update (更新)

### USB :

リアパネルの USB A 端子 (更新用) に接続した USB ドライブから、本機のファームウェアを更新できます。www.MarkLevinson.com の製品ページからファームウェアファイルをダウンロードして、USB ドライブに保存しておきます。

音量 / 設定ノブまたは [enter] ボタンを押すと、本機は USB ドライブのデータの読み込みを開始します。(データの読み取り中は、ディスプレイに <Check Update> (アップデート確認中) が表示されます。) ドライブ上に有効なファームウェアファイルが見つかったら、ディスプレイに <Downloading> (ダウンロード中) が表示されます。ドライブ上に有効なファームウェアファイルが見つからないときは、ディスプレイに <Not Available> (入手不可) が表示されます。

### ENET :

本機をホームネットワークに接続している場合はこの項目を選択します。

マークレビンソンのサーバーにアクセスして最新のファームウェアをダウンロードします。

#### 注記

本機がネットワークに接続されていないときに <ENET> を選択すると、ディスプレイに <Failed> が表示されます。本機をネットワークに接続してからファームウェアのダウンロードを開始してください。

更新作業には **15 分以上かかります**。作業を中断させないようにしてください。

本機は新しいオペレーティングファイルのダウンロードやインストールの作業を何回か繰り返し、スタンバイ状態になったり、元に戻ったりします。「Booting…」、「Starting N05805…」、「Firmware Version [number]…」、「Starting…」の順にメッセージが表示されたら、アップデートはほぼ終了です。その後本機はスタンバイモードに入ります。

スタンバイ LED が点滅し始めるまで本機を起動しないでください。

## Config (設定) - Export (エクスポート)

本機の現在のシステム設定を外部媒体にエクスポートします。エクスポートしたデータは、他の No5805 アンプの設定に使用したり、バックアップとして保管すれば本機をすばやく再設定できます。本機を希望どおりにセットアップしたら、その設定情報を USB ドライブにエクスポートし、バックアップとして保管することをおすすめします。万一、本機の設定状態が変わっても、元に戻すことができます。

エクスポート先の USB メモリ / USB HDD をリアパネルの USB 端子 (type A) に接続し、<Export> を選択します。

## Config (設定) - Import (インポート)

外部媒体にエクスポートしたシステム設定をインポートします。

インポートするファイルが保存されている USB メモリ / USB HDD をリアパネルの USB 端子 (type A) に接続し、<Import> を選択します。

## Config (設定) - Lock (ロック)

設定メニューの設定内容を変更できないようにするには、<Lock> を <On> に設定します。

## Config (設定) - Restore (復元)

すべての設定を、工場出荷時の設定 (初期設定) に戻します。

復元中は <Restoring…> (復元中)、復元が終了すると <Restore done> (復元完了) と表示されます。

カスタマイズした設定はすべて失われます。

## Network (ネットワーク) - Name (名称)

本機のネットワーク上の名称が表示されます。

<No5805XXX> のように表示されます (XXXX は、各製品に固有の MAC アドレス)。

ネットワーク名は任意の名称に変更することができます。操作方法については、19 ページの「Name (名称)」の操作を参照してください。



## Network (ネットワーク) - DHCP

DHCP (ネットワークアドレスの動的割り当て) 機能に関する設定をします。

**<On>** : DHCP を有効にします。

**<Off>** : DHCP を無効にします。

**<Renew>** : DHCP が有効なときに、アドレスを再割り当てします。ネットワーク接続のトラブルシューティング時に使用します。

## Network (ネットワーク) - IP Address (IP アドレス)

本機の現在の IP アドレスが表示されます。

## Network (ネットワーク) - Subnet (サブネットマスクアドレス)

本機の現在のサブネットマスクアドレスが表示されます。

## Trigger (トリガー)

リアパネルの [trigger out] 端子のトリガー信号のモードを設定します。

**<Normal> (ノーマル) : ※<sup>1</sup>**

通常はこの設定にします。

**<Pulsed> (パルス) : ※<sup>2</sup>**

古い Mark Levinson のコンポーネントなどと組み合わせて使用する場合にこの設定にします。

**Theater (シアター) :**

オンに設定すると、SSP モード用に設定した入力、本機の起動時に自動的に選択されます。

**Off (オフ) :**

トリガーの入出力接続を無効にします。

**Delay (ディレイ) :**

スタンバイ状態を完全に終了してから、トリガー信号が出力されるまでの待機時間を設定します。0 ~ 10 秒の範囲で設定できます (工場出荷時の設定は 0 秒)。

### 注記

本機がスタンバイ状態になってから元に戻るまでに数秒かかることがあるため、実際のトリガーディレイ時間は選択した秒数より長くなります。

## Front IR (フロント IR)

フロントパネルの IR (赤外線) 受信部を有効にするときは <Front IR=On>、無効にするときは <Front IR=Off> に設定します。

本機リアパネルの [IR input] (赤外線入力) 端子に赤外線受光器などを接続している場合は、<Off> に設定してください。

## Amplifier Enable (アンプの有効化)

<Amp Enable=Off> に設定すると、本機のパワーアンプ部がオフになり、本機はプリアンプまたはヘッドホンアンプとしてのみ動作します。

工場出荷時の設定は <Amp Enable=On> です。

※<sup>1</sup> 本機がオン状態のとき、トリガー出力から常時トリガー信号が出力され、スタンバイになるとトリガー信号の出力が無くなります。

※<sup>2</sup> 本機がオンになった瞬間、およびスタンバイになった瞬間に、トリガー出力からトリガー・パルス信号が出力されます。

# サラウンドサウンド・プロセッサ (SSP) を含むシステム

## 本機の SSP モード

本機を AV アンプなどのサラウンドサウンド・プロセッサに接続するときは、本機を SSP モードに設定します。

本機を SSP モードにすると、本機をマルチチャンネルのホームシネマシステムにシームレスに統合することができます。SSP モードでは、どのアナログ入力もサラウンドサウンド・プロセッサ用入力として指定できます。また、本機での音量コントロールが無効になり、音量レベルはユニティゲインに固定されます。このため、サラウンドサウンド・プロセッサは、本機に接続した左右のスピーカーの音量を、他のシステムと連携してコントロールすることができます。SSP モードで行われたルームコレクション EQ とレベルキャリブレーションは、サラウンドサウンド・プロセッサに保存され、そのまま維持されます。

## 接続と操作

### 接続の手順

接続するときは、27 ページの接続例を参考にしてください。

接続は、以下の手順で行います。

1. 本機と、接続先のすべての機器の電源をオフにし、電源ケーブルを AC コンセントから抜きます。
2. サラウンドサウンドのソース機器の出力端子をサラウンドサウンド・プロセッサの入力端子に接続します。  
たとえば、ブルーレイディスクの再生音をサラウンドサウンドで聴く場合は、ブルーレイディスクプレーヤーの出力端子をサラウンドサウンド・プロセッサの適切な入力端子に接続します。
3. サラウンドサウンド・プロセッサのフロント右チャンネルとフロント左チャンネルの出力端子を本機の適切な入力端子（アナログ・バランス入力端子またはアナログ・アンバランス入力端子）に接続します。

### 注記

最高のパフォーマンスを実現するため、できるだけバランス接続を行ってください。

SSP 用に選択した入力の名前を「Theater」や「Movies」などに変更することをおすすめします。

4. サラウンドサウンド・プロセッサのセンター出力端子、サラウンド出力端子およびサブウーファー出力端子を、対応するパワーアンプの適切な入力端子に接続します。
5. 本機のスピーカー出力端子をフロント右スピーカーとフロント左スピーカーに接続します。

### 操作

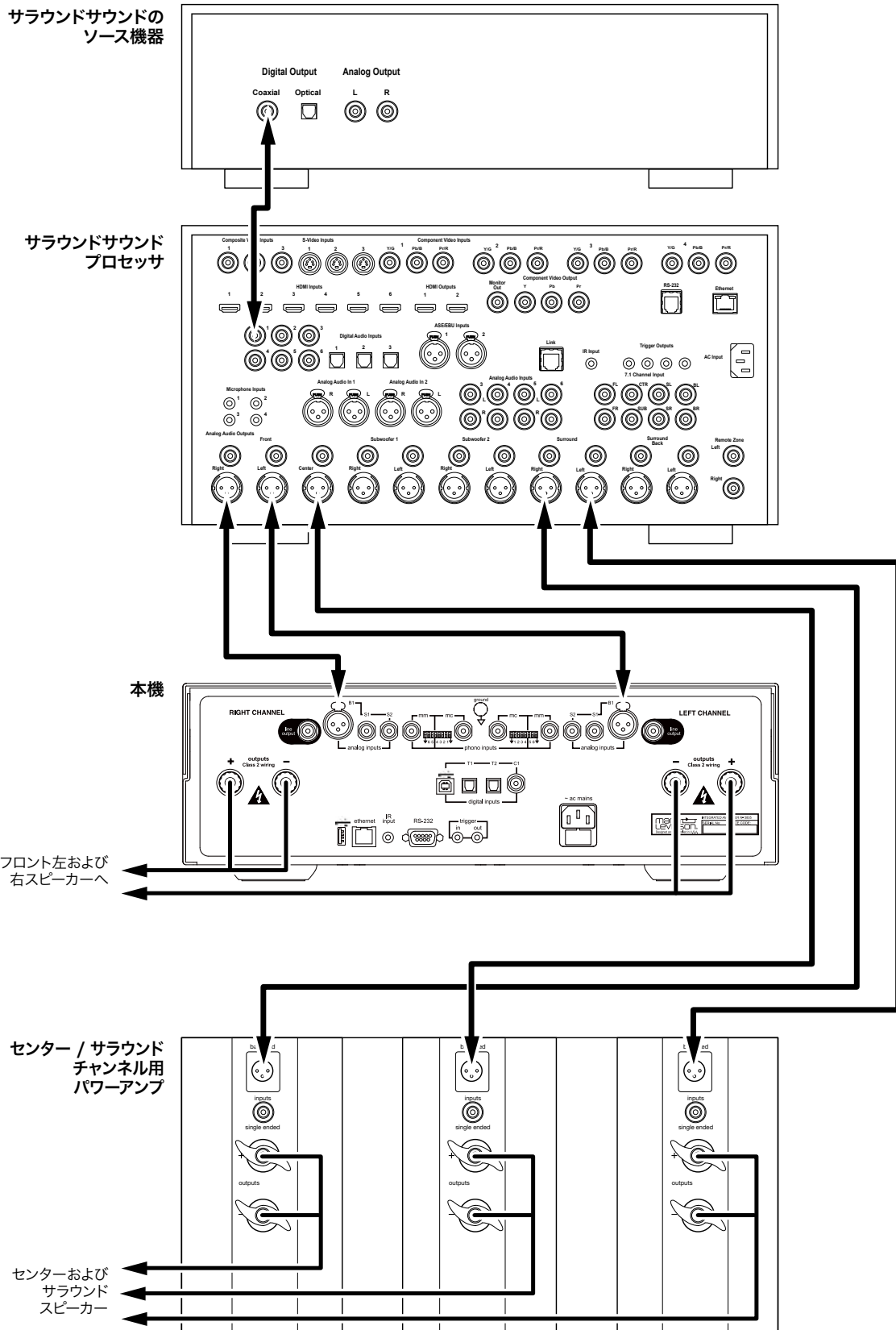
サラウンドサウンド・プロセッサを接続した入力の SSP モードを有効にします。

### ご注意

SSP モードの有効 / 無効を切り替える前に、サラウンドサウンド・プロセッサの音量を 0（最小）にしてください。スピーカーに思わぬレベルの信号が送られる場合があります。

1. フロントパネルまたはリモコンの [menu] ボタンを押します。  
ディスプレイに <SETUP:Input> が表示され、メニュー操作状態になります。
2. フロントパネルの音量 / 設定ノブまたはリモコンの [enter] ボタンを押します。
3. フロントパネルの入力 / 選択ノブまたはリモコンの [input  $\wedge$  /  $\vee$ ] ボタンで、サラウンドサウンド・プロセッサを接続した入力 <B1>、<S1>、<S2> のいずれかを選択し、音量 / 設定ノブまたは [enter] ボタンを押します。
4. <Setup SSP> を選択し、音量 / 設定ノブまたは [enter] ボタンを押します。
5. <SSP=On> を選択し、音量 / 設定ノブまたは [enter] ボタンを押します。
6. [menu] ボタンを繰り返し押し続けてメニュー操作を終了します。
7. プロセッサでシステムキャリブレーションを実行します。
8. マルチチャンネルのソース素材を聴きたい場合は、指定されたアナログ入力を選択します。

# 接続例



# トラブルシューティング

故障かな、と思ったら、まず以下のトラブルシューティングをご覧ください。

それでも問題が解決しないときは、正規のマークレビンソン販売店、またはハーマンインターナショナル株式会社にご相談ください。

## 保護回路の不具合

本機が損傷する可能性がある場合、内蔵保護回路がアンプを遮断し、フロントパネルのディスプレイに下表のいずれかのエラーメッセージが表示されます。

「対策」欄の指示に従って本機の状態を改善してから、本機を使用してください。

それでもエラーメッセージが消えない場合は、正規のマークレビンソン販売店、またはハーマンインターナショナル株式会社にご連絡ください。

エラーメッセージ	問題点	対策
WARNING: DC DETECTED ON [LEFT/RIGHT] CHANNEL	表示されているチャンネルの出力に DC を検出しました。スピーカーを損傷する可能性があります。	本機の電源を切り、AC 電源コードを AC コンセントから抜きます。 10 秒待ってから電源コードを再度 AC コンセントに差し、本機の電源を入れます。
WARNING:OVER TEMP [LEFT/RIGHT]	表示されているチャンネルが温度制限を超えたことを示します。	本機をスタンバイ状態にして 10～15 分待ちます。本機が冷えたら [standby] ボタンを押します。 エラーメッセージが消えない場合は、本機の換気が十分でない可能性があります。本機を通気のいい場所へ移動して換気してください。
WARNING: OVER CURRENT ON [LEFT/RIGHT] CHANNEL	表示されているチャンネルが電流制限を超えたことを示します。	本機の電源を切り、AC 電源コードを AC コンセントから抜きます。 10 秒待ってから電源コードを再度 AC コンセントに差し、本機の電源を入れます。 エラーメッセージが消えない場合は、再度本機の電源を切って電源コードを AC コンセントから抜き、該当チャンネルのスピーカーケーブルを本機から外します。 10 秒待ってから電源コードを再度 AC コンセントに差し、本機の電源を入れます。

本機をホームネットワークに接続している場合は、コンピューターまたはタブレットを使用してウェブブラウザから N05805 の GUI にアクセスします。Utility ページの右側に赤いベルのアイコンが表示され、動作温度（摂氏）などさまざまなステータスインジケータが表示されます。インジケータをメモしてから、Fault History（エラー履歴）の Open を選択して、エラー履歴を表示します。エラー履歴は、お客さまや技術者が本機の誤動作や不備を診断するのに役立ちます。

## 電源がオンにならない

- 電源コードが、リアパネルの [~ ac mains] 端子に接続され、かつ機能しているスイッチのない AC コンセントにも接続されていることを確認してください。
- リアパネルの [~ ac mains] 端子の主電源ヒューズを確認してください。
- ブレーカーを調べて、本機を接続している AC コンセントが通電していることを確認してください。
- 本機がスタンバイ状態になっていないことを確認してください。本機がオンのときは、フロントパネルの [standby] インジケータが点灯します。本機がスタンバイ状態のときは、[standby] インジケータがゆっくり点滅します。

## リモコンが動作しない

- ・ フロントパネルの IR（赤外線）受信部とリモコンの赤外線発信部の間の障害物を取り除いてください。
- ・ リアパネルの [IR input]（赤外線入力）端子に何も接続されていないことを確認してください。
- ・ 設定メニューでフロントパネルの IR 受信部を無効にしていないことを確認してください。
- ・ 本機フロントパネルとリモコンの距離が 5m 以内であることを確認してください。また、フロントパネルの IR 受信部に対して、リモコンを適切な角度（45° 以内）で向けていることを確認してください。
- ・ リモコンを、フロントパネルの IR（赤外線）受信部に対して適切な角度で向けていることを確認してください。
- ・ フロントパネルの IR（赤外線）受信部に直射日光やハロゲン電球の光、蛍光灯の照明が当たっていないことを確認してください。IR 受信部に強い光が当たっていると、赤外線の受信が不安定になることがあります。
- ・ リモコンの電池を交換してください。

## 本機からオーディオ信号が出力されない

- ・ 本機と外部オーディオコンポーネント（録音機器など）が確実に接続されていることを確認してください。
- ・ 本機とスピーカーが確実に接続されていることを確認してください。接続したスピーカーの 1 つを別のアンプ（使用可能な場合）に接続して、スピーカーが正常に動作していることを確認してください。
- ・ 音量が適切なレベルに調節されていることを確認してください。（レベル 30 から開始し、ゆっくり上げていきます。）
- ・ ミュート機能がオフになっていることを確認してください。ミュート機能がオンになっていると、ディスプレイに <Mute> が表示されます。リモコンの [mute] ボタンを押すと、ミュート機能がオフになります。
- ・ 選択している入力ソースの <Offset> 設定により、聴こえないレベルにまで音量が下がっていないことを確認してください。<Offset> の設定については、「設定メニュー」の 19 ページを参照してください。
- ・ すべての外部オーディオコンポーネントが通電している AC コンセントに接続され、電源がオンになっていることを確認してください。
- ・ 選択した入力ソースに対応するコンポーネントが本機に接続され、信号を出力していることを確認してください。

## 入力ソースを選択できない

- ・ 選択しようとしている入力ソースが設定メニューの <Name> で <Disabled> に設定されていないことを確認してください。（<Name> の設定については、「セットアップメニュー」の 19 ページを参照してください。）

## オーディオ信号にハム音が含まれている

- ・ 接続されている外部オーディオコンポーネントを 1 台ずつ取り外して、問題のある機器を特定します。問題のある機器が特定できたら、その機器が適切に接地されているか、また本機と同じ電源に接続されているかを確認してください。

## 音量を最大に調節できない

- ・ 設定メニューの <Volume> → <Max Vol> の設定によっては、本機の音量を最大の 80 にすることができません。（<Max Vol> の設定については、「設定メニュー」の 21 ページを参照してください。）

## フロントパネルに何も表示されない

- ・ ディスプレイがオフになっているときは、リモコンまたはフロントパネルのボタンを何か押すと表示が戻ります。（22 ページを参照して、設定メニューの <Auto off> の設定も確認してください。）

## ネットワークに接続できない

- ・ ルーターやスイッチ、ハブと本機が LAN ケーブルで正しく接続されていることを確認してください。
- ・ ルーターやスイッチ、ハブの製造年を確認します。ルーターやスイッチ、ハブが 10 年以上前に製造された機器である場合は、本機との通信に支障が生じることがあります。本機の電源をいったんオフにしてから再びオンにし、ネットワークと本機との間に新しいルーターやスイッチ、ハブを接続してください。

## 上記のすべてを試しても解決しない

- ・ [standby] ボタンで本機をオフにし、10 秒以上経過してから再びオンにしてください。
- ・ 設定メニューの <Advanced> → <Config> → <Config Restore> により、本機を工場出荷時の設定状態に戻してください（24 ページ参照）。
- ・ 正規のマークレビンソン販売店、またはハーマンインターナショナル株式会社にご連絡ください。

# 仕様

## アナログライン入出力部

ライン入力インピーダンス	バランス (XLR) : 20k $\Omega$ シングルエンド (RCA) : 10k $\Omega$
音量調節	バランス、電圧モード、デジタル制御抵抗ネットワーク
ゲイン	8.5dB 以下
出力インピーダンス	55 $\Omega$
出力過負荷	4.5Vrms 以上
周波数特性 (ユニティゲイン音量設定時)	20Hz ~ 20kHz ( $\pm 0.03$ dB)、 2Hz ~ 210kHz (+0.1/-3dB)
THD (ユニティゲイン音量設定時)	0.01% 以下 (1kHz)、0.03% 以下 (20kHz)
S/N (2Vrms 出力、ユニティゲイン音量設定を基準)	96dB 以上 (20Hz ~ 20kHz、A 特性フィルター)、 93dB 以上 (20Hz ~ 20kHz、広帯域、補正なし)
入力感度 (最大音量設定時)	ライン出力 : 53mVrms スピーカー出力 : 2.83Vrms
システムゲイン	34.5dB (スピーカー出力へのライン入力、最大音量設定時)

## フォノ部

RIAA フィルター周波数帯域	20Hz ~ 20kHz ( $\pm 0.3$ dB)
インフラソニックフィルター	選択可、20Hz、1st オーダー (6dB/oct)

## MM カートリッジ

抵抗負荷	47k $\Omega$
容量負荷	選択可、20/70/120/170pF
ゲイン	39dB@1kHz
THD	0.01% 以下 (1kHz、2Vrms 出力)、0.05% 以下 (20kHz、2Vrms 出力)
S/N (2Vrms 出力を基準)	90dB 以上 (20Hz ~ 20kHz の A 特性フィルター)、 78dB 以上 (20Hz ~ 20kHz、広帯域、補正なし)
最大入力レベル	190mV 以上 @1kHz、1.6V 以上 @20kHz

## MC カートリッジ

抵抗負荷	選択可、37 $\Omega$ ~ 1000 $\Omega$
ゲイン	69dB@1kHz
THD	0.01% 以下 (1kHz、2Vrms 出力)、0.06% 以下 (20kHz、2Vrms 出力)
S/N (2Vrms 出力を基準)	71dB 以上 (20Hz ~ 20kHz、A 特性フィルター)、 66dB 以上 (20Hz ~ 20kHz、広帯域、補正なし)
最大入力レベル	65mV 以上 @1kHz、19mV 以上 @20kHz

## DA 変換部

出力電圧	最大音量で 5.7Vrms/ フルスケール (0dBFS)
周波数特性	20Hz ~ 20kHz (+0/-0.05dB、44.1kHz/16 ビット信号)、20Hz ~ 20kHz (+0/-0.02dB、192kHz/24 ビット信号)
THD	0.0025% 以下 (20Hz ~ 20kHz、@3Vrms 出力、192kHz/24 ビット信号)、 0.003% 以下 (20Hz ~ 20kHz、@3Vrms 出力、44.1kHz/16 ビット信号)、 0.006% 以下 (90Hz、@3Vrms 出力、192kHz/24 ビット信号)
S/N (3Vrms 出力を基準)	100dB 以上 (20Hz ~ 20kHz、192kHz/24 ビット信号、A 特性フィルター)、 98dB 以上 (20Hz ~ 20kHz、192kHz/24 ビット信号、広帯域、補正なし)、 94dB 以上 (20Hz ~ 20kHz、44.1kHz/16 ビット信号、A 特性フィルター)、 92dB 以上 (20Hz ~ 20kHz、44.1kHz/16 ビット信号、広帯域、補正なし)
サンプリングレート / ビット数	PCM : 32/44.1/48/88.2/96/176.4/192/352.8/384kHz、最大 32 ビット DSD : ネイティブまたは DoP、シングル、ダブル、またはクワッドスピード (2.8/5.6/11.2MHz)
デジタル処理	フル MQA デコード PCM : 選択可能な 7 つのデジタルフィルター設定、 352.8/384kHz までの選択可能なアップサンプリング DSD : 選択可能な 4 つのデジタルフィルター設定

## ヘッドホン出力

THD	0.04% 以下 (20Hz および 1kHz、2Vrms 出力、30 Ω 負荷)、 0.10% 以下 (20kHz、2Vrms 出力、30 Ω 負荷)
出力 / 加負荷	3.3Vrms 以上、30 Ω 負荷
S/N	91dB 以上 (20Hz ~ 20kHz、A 特性フィルター、2Vrms 出力を基準)、 87dB 以上 (20Hz ~ 20kHz、広帯域、補正なし、2Vrms 出力を基準)
出力インピーダンス	2.5 Ω 以下 (20Hz ~ 20kHz)

## アンプ部

周波数特性	2Hz ~ 20kHz (+0/-0.2dB)、2Hz ~ 100kHz (+0/-0.3dB)
S/N	103dB 以上 (20Hz ~ 20kHz、A 特性フィルター)、100dB 以上 (20Hz ~ 20kHz、広帯域、補正なし)
THD+N	0.035% 以下 (@1kHz、125W、8 Ω)、0.18% 以下 (@20kHz、125W、8 Ω)
出力レベル	125Wrms/ チャンネル、8 Ω、20Hz ~ 20kHz
出力インピーダンス	0.098 Ω 以下 (20Hz ~ 10kHz)、0.11 Ω 以下 (20kHz)
ダンピングファクター	82 以上 (20Hz ~ 10kHz、8 Ω)、72 以上 (20kHz、8 Ω)

## 一般

アナログ入力端子	XLR バランス ×1 ペア RCA アンバランス ×2 ペア フォノ (MM/MC) ×1 ペア
デジタル入力端子	RCA (S/PDIF) 同軸 ×1 オプティカル ×2 (Toslink) /USB (Type B) ×1
出力端子	RCA アンバランス ×1 スピーカー出力 (バナナジャック対応大容量バイディングポスト、6.3mm 間隔、最大 3mm 厚の スペードラグに対応) ×2
制御用端子	RS-232 端子 (DB9) ×1 赤外線入力 (φ 3.5mm ミニジャック) ×1 トリガー出力 (DC12V、φ 3.5mm ミニジャック、最大電流 100mA) ×1 トリガー入力 (DC12V、φ 3.5mm ミニジャック) ×1 LAN 端子 (RJ-45) ×1
電源	AC100V (50Hz/60Hz)
消費電力	スタンバイ時：最大 0.4W (グリーンモード時)、7W (パワーセーブモード時)、70W (ノーマルモード時) 電源オン時：120W (無信号時)、240W (定格 1 / 8 両チャンネル出力時)、500W (最大出力時)
寸法	高さ 145mm (脚含む) × 幅 438mm × 奥行 507mm
重量	33.0kg



HARMAN International Industries, Incorporated  
8500 Balboa Boulevard  
Northridge, CA 91329 USA

© 2019 HARMAN International Industries, Incorporated. All rights reserved.

Mark LevinsonはHARMAN International Industries, Incorporatedの登録商標です。

その他の会社名および製品名は、それぞれに関連する会社の商標である可能性があります。

この文書はHARMAN International Industries, Incorporatedによる確約と解釈されるべきものではありません。この文書に含まれる情報および製品の機能、仕様、外観は予告なく変更される場合があります。HARMAN International Industries, Incorporatedは、この文書に記載されている可能性がある間違いについて責任を負いません。

カスタマーサービスおよび製品の出荷情報については、弊社のWebサイトwww.harman-japan.co.jpをご覧ください。

日本国内のアフターサポートに関する情報は、ハーマンインターナショナル株式会社ホームページに掲載しています。

<http://marklev.harman-japan.co.jp/support/>

Tel : 0570-550-465 (ナビダイヤル) 受付時間：土日・祝日を除く、平日 9:30 ~ 17:30

[marklev.harman-japan.co.jp/](http://marklev.harman-japan.co.jp/)

ML-VH-0007  
08190100